

人間関係論 (その1) 親子関係について

III 大学生の“親”としての自己の未来像に関する調査報告

山 田 順 子

The Study of Human Relations, No.1— Relationships between Parents and Children

(3) Research on the Image University Students have of Themselves as “Parents”

Yoriko YAMADA

The purpose of this study is to examine the opinion of young people on the following subjects, and to identify the relationships among them.

A test was conducted on 323 male and 319 female university students.

A questionnaire consisted of the following three main points.

1. Whether they expect themselves to be good parents, or not.
2. Whether some school education is a precondition for them to be good parents in the future, or not.
3. Whether they regard their parents as good parents, or not.

The result of this survey is as follows.

1. The percentage of male students who think that they will be good parents is larger than that of female students.
2. The percentage of male students who suppose that some school education for them is a precondition for being good parents is also larger than that of female students.

From my judgement on the subject, it seems that male students have a strong tendency toward over-confidence.

3. The male students who regard their fathers as good parents, tend to think that they will also to be good parents. And they tend to think that some school education is necessary for them to be good parents in the future.
4. There are plenty of students who don't know whether they will be good parents or not, and who don't have confidence about being good parents.

Further examination on the above subjects is urgently important in order to prove the positive effect of some school education for young people in order to be good parents.

〔目的および方法〕

今日の青少年の反社会的あるいは非社会的な種々の問題行動の要因を探究していくと、親の養育態度にも少なからぬ問題があると考えられるケースが少なくない。今回は、近い将来親になるであろう青少年たちが、「親」としての自己の未来像をどのように描いているか、また自分の両親をどのように評価しているか、そして児童・生徒が将来自分たちの子どもの心身両面での健全な成長を援助できるような親（本調査では、このような親を「よい親」と呼ぶことにする）となれるような何らかの学校教育の必要性を感じているかどうか、などを知ることを目的として調査を行ない、その調査結果に基づいて考察した。なお、検定の手法としては、 χ^2 検定を用いた。

調査対象：東京都および埼玉県の大学に通う
大学生、男女各350人、計700人
調査時期：昭和56年7月
調査方法：集団記入法
調査有効数：男子=323人 (92.3%)
(率) 女子=319人 (91.1%)

〔結果〕

〈よい親になれるという自信〉 (表1)

「あなたが結婚して子どもが生まれたとしたら、あなたは子どものよい親になれると思いますか」という問いに対して、女子では「わからない」という回答が60.2%で最も多く、以下「なれる」32.6%、「なれない」7.2%となっている。(P<.01)

(表1) 自分は将来よい親になれると思うか

	わからない	なれる	なれない	計
男子	164名 (50.8%)	137名 (42.4%)	22名 (6.8%)	323名 (100.0%)
女子	192名 (60.2%)	104名 (32.6%)	23名 (7.2%)	319名 (100.0%)

い」7.2%となっている。(P<.01)

男子では「わからない」(50.8%)と「なれる」(42.4%)との間に、有意差は認められない。

「なれない」と答えている者は、男女ともその理由として「子どもが嫌いだから」、「自分はわがままで自己中心的な性格なので、子どもを自分の思い通りにしようとしそうだから」、「両親とも(あるいは自分と同性の親は)「親」として考えた場合悪い方だと思うが、自分も子どもを持ったら親と同じようにしてしまいたいそうだから」などをあげている。

また、「なれる」と答えている者は、男女ともその理由として「子どもが好きだし、子どもの気持になって考えることができると思うから」、「両親とも「親」として考えた場合よい方だと思うので、自分も子どもを持ったら親が自分にしてくれたようにしようと思うから」、「両親とも(あるいは自分と同性の親は)「親」として考えた場合悪い方だと思うので、自分が子どもを持ったら親のようにはなるまいと努力するつもりだから」などをあげている。

〈教育の必要性〉 (表2)

「学校教育の中で、児童・生徒が将来よい親になるために何らかの教育がなされる必要があると思いますか」という問いに対して、女子では「必要だ」という回答が52.7%で最も多く、以下「必要ない」30.7%、「わからない」16.6%となっている。(P<.01)

男子では「必要だ」(37.2%)と「必要ない」(39.6%)との間に、有意差は認められない。

(表2) 児童・生徒が将来よい親になるために学校教育における何らかの教育は必要か

	必要だ	必要ない	わからない	計
男子	120名 (37.2%)	128名 (39.6%)	75名 (23.2%)	323名 (100.0%)
女子	168名 (52.7%)	98名 (30.7%)	53名 (16.6%)	319名 (100.0%)

(表3)

自分は将来よい親になれると思うか
 ×
 児童・生徒が将来よい親になるために
 学校教育における何らかの教育は必要か

	よい親に			計
	わからない	なれる	なれない	
必要だ	17.6%	15.5%	4.0%	37.2%
	57名	50名	13名	120名
必要ない	23.2%	13.6%	2.8%	39.6%
	75名	44名	9名	128名
わからない	9.9%	13.3%	0.0%	23.2%
	32名	43名	0名	75名
計	50.8%	42.4%	6.8%	100.0%
	164名	137名	22名	323名

(表4)

自分は将来よい親になれると思うか
 ×
 児童・生徒が将来よい親になるために
 学校教育における何らかの教育は必要か

	よい親に			計
	わからない	なれる	なれない	
必要だ	31.3%	18.2%	3.1%	52.7%
	100名	58名	10名	168名
必要ない	18.2%	10.0%	2.5%	30.7%
	58名	32名	8名	98名
わからない	10.7%	4.4%	1.6%	16.6%
	34名	14名	5名	53名
計	60.2%	32.6%	7.2%	100.0%
	192名	104名	23名	319名

〈よい親になれる自信×教育の必要性〉(表3・表4)

「自分は将来よい親になれると思うか×児童・生徒が将来よい親になるために学校教育における何らかの教育は必要か」について見ると、最も多い回答は、男子では「わからない—必要ない」23.2%、女子では「わからない—必要だ」31.3%となっている。

また、男子では、「教育が必要かどうかわからない」と答えている者には「自分はよい親になれると思う」と答える者が多い^(註1)という傾向があり (P<.01)

「自分はよい親にはなれないと思う」と答えている者には「教育は必要だ」と答える者が多いという傾向がある。(P<.01)

女子には、このような傾向はない。

〈父親に対する評価〉 (表5)

「“親”としてのあなたのお父さんは、あなたから見ると次のどれですか」という問いに対して、

男子では「よい方だと思う」(46.7%)と「普

通だと思う」(45.2%)が、ほぼ同じ割合である。

女子では半数以上(55.8%)が「よい方だと思う」と答えており、以下「普通だと思う」32.6%、「悪い方だと思う」11.6%となっている。(P<.01)

また、自分の父親に対する評価には、男女間に有意差(P<.01)が認められ、親として考えた場合「よい方だと思う」と答えている者は、女子の方が男子より多く、親として考えた場合「普通だと思う」と答えている者は、男子の方が女子より多い。

〈母親に対する評価〉 (表6)

「“親”としてのあなたのお母さんは、あなたから見ると次のどれですか」という問いに対して、

男子では「よい方だと思う」60.4%、「普通だと思う」37.2%、「悪い方だと思う」2.5%、という順になっており (P<.01)

女子でも同様に「よい方だと思う」69.6%、

「普通だと思う」26.0%、「悪い方だと思う」4.4%、という順である (P<.01)

また、自分の母親に対する評価には、男女間に有意差 (P<.01) が認められ、親として考えた場合「よい方だと思う」と答えている者は、女子の方が男子より多く、親として考えた場合「普通だと思う」と答えている者は、男子の方が女子より多い。

〈両親に対する評価〉 (表7)

男女とも最も多い回答は、親として考えた場合「父親も母親もよい方だと思う」というもので、男子では36.8%、女子では48.6%となっている。

また、男子では2番目に多い「父親も母親も普通だと思う」の26.0%が目立っている。

これまでに見てきたところからわかるように女子の方が男子よりも両親に対する評価が高いにもかかわらず、親として考えた場合「父親も母親も悪い方だと思う」と答えている者が男子には1人もいないのに、女子では8名となっている。この8名の回答者について、両親に対する要望などを自由記述形式で答えてもらったところを見ると、8名とも目

下ボーイフレンドとの交際をめぐって両親と意見が衝突しているところであることがわかった。

〈父親に対する評価×よい親になれるという自信〉 (表8・表9)

——男子—— (表8)

親として考えた場合「よい方だ」と答えている者には、「自分は将来よい親になれる」と答える者が多く、「わからない」と答える者が期待値より少ない(注2)。(P<.01)

親として考えた場合「普通だ」と答えている者には、「わからない」と答える者が多く、「なれる」と答える者が期待値より少ない。(P<.01)

親として考えた場合「悪い方だ」と答えている者には、「なれない」と答える者が期待値より多いという傾向がある。(P<.01)

「自分は将来よい親になれる」と答えている者には、親として考えた場合「よい方だ」と答える者が多く、「普通だ」と答える者が期待値より少ない。(P<.01)

「自分は将来よい親になれるかどうかわからな

(表5) 父親に対する評価

	よい	普通	悪い	計
男子	151名 (46.7%)	146名 (45.2%)	26名 (8.0%)	323名 (100.0%)
女子	178名 (55.8%)	104名 (32.6%)	37名 (11.6%)	319名 (100.0%)

(表6) 母親に対する評価

	よい	普通	悪い	計
男子	195名 (60.4%)	120名 (37.2%)	8名 (2.5%)	323名 (100.0%)
女子	222名 (69.6%)	83名 (26.0%)	14名 (4.4%)	319名 (100.0%)

(表7) 両親に対する評価

	父よ母よ	父普母よ	父普母普	父よ母普	父悪母よ	父悪母普	父普母悪	父よ母悪	父悪母悪	計
男子	119名 (36.8%)	57名 (17.6%)	84名 (26.0%)	26名 (8.0%)	18名 (5.6%)	9名 (2.8%)	5名 (1.5%)	5名 (1.5%)	0名 (0.0%)	323名 (100.0%)
女子	155名 (48.6%)	51名 (16.0%)	49名 (15.4%)	21名 (6.6%)	16名 (5.0%)	13名 (4.1%)	4名 (1.3%)	2名 (0.6%)	8名 (2.5%)	319名 (100.0%)

表1～表5：男子・女子とも、それぞれ、回答間に有意差 (P<.01) あり。また、いずれも、男女間に有意義あり。表1はP<.05、表2～表5はP<.01。

(表 8)

父親に対する評価
×
自分は将来よい親になれると思うか

		父親として			計
		父よ	父普	父悪	
よい親になれる	わからない	15.2%	33.1%	2.5%	50.8%
		49名	107名	8名	164名
	わかる	28.8%	10.8%	2.8%	42.4%
		93名	35名	9名	137名
わからない		2.8%	1.2%	2.8%	6.8%
		9名	4名	9名	22名
計		46.7%	45.2%	8.0%	100.0%
		151名	146名	26名	323名

(表 9)

父親に対する評価
×
自分は将来よい親になれると思うか

		父親として			計
		父よ	父普	父悪	
よい親になれる	わからない	32.0%	22.6%	5.6%	60.2%
		102名	72名	18名	192名
	わかる	20.1%	9.1%	3.4%	32.6%
		64名	29名	11名	104名
わからない		3.8%	0.9%	2.5%	7.2%
		12名	3名	8名	23名
計		55.8%	32.6%	11.6%	100.0%
		178名	104名	37名	319名

い」と答えている者には、親として考えた場合「普通だ」と答える者が多く、「よい方だ」と答える者が期待値より少ない。(P < .01)

「自分は将来よい親にはなれない」と答えている者には、親として考えた場合「悪い方だ」と答える者が期待値より多く、「普通だ」と答える者が少ないという傾向がある。(P < .01)

—女子— (表 9)

男子の場合のような顕著な傾向は認められないが、強いて言えば次のような傾向がある。

親として考えた場合「普通だ」と答えている者には、「自分は将来よい親になれるかどうかわからない」と答える者が多く、「なれる」あるいは「なれない」と答える者が期待値より少ないという傾向があり (P < .05)

親として考えた場合「悪い方だ」と答えている者には、「自分は将来よい親にはなれない」と答える者が期待値より多いという傾向がある。(P < .05)

また、「自分はよい親にはなれない」と答えている者には、親として考えた場合「悪い方だ」と答える者が期待値より多い (P < .05) という傾向がある。

<母親に対する評価×よい親になれるという自信> (表10・表11)

—男子— (表10)

親として考えた場合「悪い方だ」と答えている者には、「自分は将来よい親になれる」と答える者が多く (P < .01)

「自分は将来よい親になれる」と答えている者には、親として考えた場合「悪い方だ」と答える者が期待値より多いという傾向がある (P < .05)

—女子— (表11)

特筆すべき顕著な傾向は、認められない。

(表10)

母親に対する評価
×
自分は将来よい親になれると思うか

		母親として			計
		母よ	母普	母悪	
よい親になれる	わからない	30.0%	20.7%	0.0%	50.8%
		97名	67名	0名	164名
	わかる	24.8%	15.2%	2.5%	42.4%
		80名	49名	8名	137名
よい親になれない	わからない	5.6%	1.2%	0.0%	6.8%
		18名	4名	0名	22名
計		60.4%	37.2%	2.5%	100.0%
		195名	120名	8名	323名

(表11)

母親に対する評価
×
自分は将来よい親になれると思うか

		母親として			計
		母よ	母普	母悪	
よい親になれる	わからない	40.8%	16.9%	2.5%	60.2%
		130名	54名	8名	192名
	わかる	23.5%	7.8%	1.3%	32.6%
		75名	25名	4名	104名
よい親になれない	わからない	5.3%	1.3%	0.6%	7.2%
		17名	4名	2名	23名
計		69.6%	26.0%	4.4%	100.0%
		222名	83名	14名	319名

〈両親に対する評価×よい親になれるという自信〉

——男子—— (表12)

「両親ともよい方だ」と答えている者には、「自分はよい親になれる」と答える者が多く、「わからない」と答える者は期待値より少ない。(P<.01)

「両親とも普通だ」と答えている者には、「自分はよい親になれるかどうかわからない」と答えている者が多く、「なれない」と答える者は期待値より少なく、ゼロだった。(P<.01)

「父親は普通だが、母親はよい方だ」と答えている者には、「自分はよい親になれるかどうかわからない」と答える者が多く、「なれる」と答える者が期待値より少ない。(P<.01)

「父親はよい方だが、母親は普通だ」と答えている者には、「自分はよい親になれると思う」と答える者が多いという傾向がある。(P<.05)

「父親は悪い方だが、母親はよい方だ」と答えている者には、「自分はよい親になれる」と

答える者が少なく、「なれない」と答える者が期待値より多いという傾向がある。(P<.01)

「自分はよい親になれる」と答えている者には、「両親ともよい方だ」と答える者が多く、また「父親はよい方だが、母親は普通だ」と答える者が期待値より多い。そして、「父親は普通だが、母親はよい方だ」と答える者が期待値より少ない。(P<.01)

「自分はよい親になれるかどうかわからない」と答えている者には、「両親とも普通」、あるいは「父親は普通だが、母親はよい方」と答える者が多く、「両親ともよい方」と答える者が期待値より少ない。(P<.01)

「自分はよい親にはなれない」と答えている者には、「両親とも普通だ」と答える者が期待値より少なく、ゼロである。(P<.01)

——女子—— (表13)

男子の場合に見られたような特筆すべき傾向は、認められない。

(表12)

両親に対する評価
×
自分は将来よい親になるために

男子

	父よ母よ	父普母普	父普母よ	父よ母普	父悪母よ	父悪母普	父よ母悪	父普母悪	父悪母悪	計
わからない よい親に なれる なれない	12.4%	17.6%	14.9%	2.5%	2.8%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	50.8%
	40名	57名	48名	8名	9名	0名	1名	1名	0名	164名
	21.7%	8.4%	1.5%	5.6%	1.2%	1.5%	1.2%	1.2%	0.0%	42.4%
	70名	27名	5名	18名	4名	5名	4名	4名	0名	137名
	2.8%	0.0%	1.2%	0.0%	1.5%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%
	9名	0名	4名	0名	5名	4名	0名	0名	0名	22名
計	36.8%	26.0%	17.6%	8.0%	5.6%	2.8%	1.5%	1.5%	0.0%	100.0%
	119名	84名	57名	26名	18名	9名	5名	5名	0名	323名

(表13)

両親に対する評価
×
自分は将来よい親になれると思うか

女子

	父よ母よ	父普母よ	父普母普	父よ母普	父悪母よ	父悪母普	父悪母悪	父普母悪	父よ母悪	計
わからない よい親に なれる なれない	27.3%	10.3%	11.3%	4.4%	3.1%	1.3%	1.3%	0.9%	0.3%	60.2%
	87名	33名	36名	14名	10名	4名	4名	3名	1名	192名
	17.6%	5.0%	3.8%	2.2%	0.9%	1.9%	0.6%	0.3%	0.3%	32.6%
	56名	16名	12名	7名	3名	6名	2名	1名	1名	104名
	3.8%	0.6%	0.3%	0.0%	0.9%	0.9%	0.6%	0.0%	0.0%	7.2%
	12名	2名	1名	0名	3名	3名	2名	0名	0名	23名
計	48.6%	16.0%	15.4%	6.6%	5.0%	4.1%	2.5%	1.3%	0.6%	100.0%
	155名	51名	49名	21名	16名	13名	8名	4名	2名	319名

〈父親に対する評価×教育の必要性〉

—男子— (表14)

親として考えた場合「よい方だ」と答えている者には、「必要ない」と答える者が多く、「必要だ」と答える者が期待値より少ない。(P<.05)

親として考えた場合「普通だ」と答えている者には、「必要ない」と答える者が期待値より少ない傾向がある。(P<.05)

親として考えた場合「悪い方だ」と答える者には、「必要だ」と答える者が多く、「わからない」と答える者が期待値より少なく、ゼロである。(P<.01)

「必要だ」と答える者には、「よい方だ」と答える者が期待値より少なく、「悪い方だ」と答える者が期待値より多い。(P<.01)

「必要ない」と答える者には、「よい方だ」と答える者が多く、「普通だ」と答える者が期

待値より少ない。(P<.05)

「わからない」と答える者には、「悪い方だ」と答える者が少ない^(*)という傾向があり(P<.05)、今回の調査ではゼロとなっている。

—女子— (表15)

男子の場合に見られたような特筆すべき傾向は、認められない。

〈母親に対する評価×教育の必要性〉

—男子— (表16)

親として考えた場合「よい方だ」と答えている者には、「必要ない」と答える者が多く、「わからない」と答える者が少ない。(P<.05)

親として考えた場合「普通だ」と答えている者には、「わからない」と答える者が多く、「必要ない」と答える者が少ない。(P<.01)

親として考えた場合「悪い方だ」と答えて

(表14)

父親に対する評価

×

児童・生徒が将来よい親になるために
学校教育における何らかの教育は必要か

教育は	父親として			計
	父よ	父普	父悪	
必要だ	12.4%	19.5%	5.3%	37.2%
	40名	63名	17名	120名
必要ない	23.2%	13.6%	2.8%	39.6%
	75名	44名	9名	128名
わからない	11.1%	12.1%	0.0%	23.2%
	36名	39名	0名	75名
計	46.7%	45.2%	8.0%	100.0%
	151名	146名	26名	323名

(表15)

父親に対する評価

×

児童・生徒が将来よい親になるために
学校教育における何らかの教育は必要か

教育は	父親として			計
	父よ	父普	父悪	
必要だ	30.1%	16.3%	6.3%	52.7%
	96名	52名	20名	168名
必要ない	17.9%	10.3%	2.5%	30.7%
	57名	33名	8名	98名
わからない	7.8%	6.0%	2.8%	16.6%
	25名	19名	9名	53名
計	55.8%	32.6%	11.6%	100.0%
	178名	104名	37名	319名

(表16)

母親に対する評価
×
児童・生徒が将来よい親になるために
学校教育における何らかの教育は必要か

男子	母親として			計
	母よ	母普	母悪	
必要だ	22.0%	12.7%	2.5%	37.2%
	71名	41名	8名	120名
必要ない	28.8%	10.8%	0.0%	39.6%
	93名	35名	0名	128名
わからない	9.6%	13.6%	0.0%	23.2%
	31名	44名	0名	75名
計	60.4%	37.2%	2.5%	100.0%
	195名	120名	8名	323名

(表17)

母親に対する評価
×
児童・生徒が将来よい親になるために
学校教育における何らかの教育は必要か

女子	母親として			計
	母よ	母普	母悪	
必要だ	37.6%	13.5%	1.6%	52.7%
	120名	43名	5名	168名
必要ない	22.3%	8.2%	0.3%	30.7%
	71名	26名	1名	98名
わからない	9.7%	4.4%	2.5%	16.6%
	31名	14名	8名	53名
計	69.6%	26.0%	4.4%	100.0%
	222名	83名	14名	319名

いる者には、「必要だ」と答える者が多いという傾向がある。(P<.01)

「必要だ」と答えている者には、「悪い方だ」と答える者が期待値より多い傾向がある。(P<.05)

「必要ない」と答えている者には、「よい方だ」と答える者が多く、「普通だ」と答える者が期待値より少ない。(P<.01)

「わからない」と答えている者には、「普通だ」と答える者が多く、「よい方だ」と答える者が期待値より少ない。(P<.01)

——女子—— (表17)

親として考えた場合「悪い方だ」と答えている者には、「わからない」と答える者が多いという傾向がある。(P<.01)

「わからない」と答えている者には、親として考えた場合「悪い方だ」と答える者が期待値より多いという傾向がある。(P<.01)

〈両親に対する評価×教育の必要性〉

——男子—— (表18)

「両親ともよい方だ」と答えている者には、「必要ない」と答える者が多く、「必要だ」と答える者が期待値より少ない。(P<.01)

「両親とも普通だ」と答えている者には、「わからない」と答える者が期待値より多く、「必要ない」と答える者が少ない。(P<.01)

「父親はよい方だが、母親は普通だ」と答えている者には、「わからない」と答える者が多く、「必要だ」と答える者が少ないという傾向がある。(P<.01)

「父親は悪い方だが、母親はよい方だ」と答えている者には、「必要だ」と答える者が多く、「わからない」と答える者が少ない(今回の調査ではゼロ)という傾向がある。(P<.01)

「必要ない」と答えている者には、「両親ともよい方だ」と答える者が多く、「両親とも普

(表18)

両親に対する評価
×
児童・生徒が将来よい親になるために
学校教育における何らかの教育は必要か

男子

	父よ母よ	父普母普	父普母よ	父よ母普	父悪母よ	父悪母普	父よ母悪	父普母悪	父悪母悪	計
必要 ない 教育は 必要 だ わから ない	20.2%	6.8%	6.8%	2.8%	1.2%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	39.6%
	66名	22名	22名	9名	4名	5名	0名	0名	0名	128名
	9.6%	9.6%	8.0%	1.2%	4.3%	1.2%	1.5%	1.5%	0.0%	37.2%
	31名	31名	26名	4名	14名	4名	5名	5名	0名	120名
	6.8%	9.6%	2.8%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	23.2%
	22名	31名	9名	13名	0名	0名	0名	0名	0名	75名
計	36.8%	26.0%	17.6%	8.0%	5.6%	2.8%	1.5%	1.5%	0.0%	100.0%
	119名	84名	57名	26名	18名	9名	5名	5名	0名	323名

(表19)

両親に対する評価
×
児童・生徒が将来よい親になるために
学校教育における何らかの教育は必要か

女子

	父よ母よ	父普母よ	父普母普	父よ母普	父悪母よ	父悪母普	父悪母悪	父普母悪	父よ母悪	計
必要 だ	26.6%	8.2%	8.2%	2.8%	2.8%	2.5%	0.9%	0.0%	0.6%	52.7%
	85名	26名	26名	9名	9名	8名	3名	0名	2名	168名
必要 ない 教育は 必要 だ わから ない	14.4%	6.0%	4.1%	3.4%	1.9%	0.6%	0.0%	0.3%	0.0%	30.7%
	46名	19名	13名	11名	6名	2名	0名	1名	0名	98名
	7.5%	1.9%	3.1%	0.3%	0.3%	0.9%	1.6%	0.9%	0.0%	16.6%
	24名	6名	10名	1名	1名	3名	5名	3名	0名	53名
計	48.6%	16.0%	15.4%	6.6%	5.0%	4.1%	2.5%	1.3%	0.6%	100.0%
	155名	51名	49名	21名	16名	13名	8名	4名	2名	319名

通だ」と答える者が期待値より少ない。
($P < .05$)

「必要だ」と答えている者には、「両親ともよい方だ」と答える者と「父親はよい方だが、母親は普通だ」と答える者が期待値より少なく、「父親は悪い方だが、母親はよい方だ」と答える者が期待値より多い。($P < .01$)

「わからない」と答えている者には、「両親とも普通だ」と答える者が多く、また「父親はよい方だが、母親は普通だ」と答える者が期待値より多いという傾向がある。($P < .05$)

—女子— (表19)

「父親はよい方だが、母親は普通だ」と答えている者には、「必要ない」と答える者が多いという傾向がある。($P < .05$) 他には、特筆すべき傾向は認められない。

〔考察〕

男子と女子を比べると、男子には「自分はよい親になれる」と思っている者が女子より多く、また「教育は必要ない」と思っている者も女子より多いという結果になっており、今回の調査で見限る限り、男子の方が女子より「親」としての自己の未来像に自信を持っているようでもある。

「自分はよい親になれると思う」と答えた男子学生11名に自由に話し合ってもらったところ、彼らの大部分に共通するのは次のような意見だった。

「子どもの養育に携わるのは、主として母親であるから、子どもがどう育つかは自分の配偶者がどのような母親になるかによって大きく左右されると思う。

自分が父親になったら、子どもに礼儀や公衆道徳、それに独立心や忍耐力、協調性などを身につけさせるようにしつけないが、やはり大部分は母親に任せざるを得ないことが多

いだろう。

自分は仕事に励み、社会人として恥しくない後姿を見せていなければならないだろうか。そして、いざという時にきちんと判断を下せればよい父親といえると思う。その時になれば、自分にもなんとかやれるだろう。」

そして、自分の配偶者が「仕事を続けたい」ないしは「仕事を持ちたい」という希望を持つことについては、

「家事や育児に支障が出ない範囲でならかまわないが、そうでないならやめてほしい。」

という意見が多かった。

子どものいる主婦も2人に1人が仕事を持っているという現状^(註4)、今後様々な分野における女性の社会的進出が予想されることなどを考え合わせると、「自分はよい親になれる」という男子の自信が母親である配偶者への過剰な負担と責任転嫁に流れてしまわなければよいという危惧も感じる。

男子においては、「親」としての自己の未来像も、教育の必要性についての考え方も、自分の父親に対する評価と深く関わっているようである。すなわち、自分の父親をよい方だと評価している者には、「自分はよい親になれる」「教育は必要ない」と答える者が多く、自分の父親を悪い方だと評価している者には、「自分はよい親にはなれない」「教育は必要だ」と答える者が多いという傾向がある。

女子には、このような傾向は見られない。これは、一つには、女子の考えている母親の役割が男子の考えている父親の役割よりも多岐にわたり、様々な配慮や判断、知識などを要求され、日常的なレベルにおいてもより負担の大きいものと認識されているからではないだろうか。

「教育は必要だと思う」と答えた者にその内容を書いてもらったところ、男子には「受験

勉強一辺倒ではなく、人間としての成長を促し援助するような教育」というような、「親」になる為のものというよりも人間としての全人格的な成長を念頭に置いた答えが多かったが、女子には最も多かった「子どもの反抗期とその対応について」の他に「赤ちゃんを育てる際に役立つような実際的な知識」「子どもの病気とその際の応急処置」「子どもの成長段階で生じると思われる様々な問題とそれらへの対処の仕方について」などというような、子どもの養育に関するより実際的な内容をあげた者が多かった。これは、ある程度先に述べた解釈を裏付けるものであろう。

今回の調査において対象となった大学生のうち、「自分はよい親になれないと思う」と答

えている者が男子では323名中22名(6.8%)、女子では319名中23名(7.2%)、「わからない」と答えている者が男子では164名(50.8%)、女子では192名(60.2%)となっている。

また、「教育は必要である」と答えた男子は37.2%、女子は52.7%であり、その時期としては中学3年から高校3年までをあげた者が多かった。

一家族当りの子どもの数が3人を割り、近隣との交際も活発とはいえず、かつてのように子どもたちが日常生活の中で観察などを通して無意識のうちに養育行動を獲得していくということがあまり期待できない今日、青少年の“親”としての自己の未来像が明るいものとなるよう、学校教育の中などで何らかの

(表20) <親に対する評価×よい親になる自信>

	男	子	女	子
よい親になる自信 × 父親に対する評価	父よい ←====→ よい親 なれる 父普通 ←====→ よい親 わからない 父悪い ←====→ よい親 なれない		父悪い ←====→ よい親 なれない	
よい親になる自信 × 母親に対する評価	母悪い ←====→ よい親 なれる		特になし	
よい親になる自信 × 両親に対する評価	父よい ←====→ よい親 なれる 母よい ←====→ よい親 わからない 父普通 ←====→ よい親 わからない 母普通 ←====→ よい親 わからない 父よい ←====→ よい親 なれる 母普通 ←====→ よい親 なれる		特になし	

← 問題にしている行あるいは列の他の項目と比較して

⇒ 絶対値も大きく、かつ期待値よりも有意に (P<.01あるいはP<.05) 多いもの

← 問題にしている行あるいは列の他の項目と比較して

→ 特に絶対値が大きいわけではないが、期待値よりは有意に (P<.01あるいはP<.05) 多いもの

(表21) <親に対する評価×教育の必要性>

	男 子	女 子
父親に対する評価 × 教育の必要性	父よい ←=====> 教育 必要ない 父悪い ←=====> 教育 必要だ	特になし
母親に対する評価 × 教育の必要性	母よい ←=====> 教育 必要ない 母普通 ←=====> 教育 わからない 母悪い ←=====> 教育 必要だ	母悪い ←=====> 教育 わからない
両親に対する評価 × 教育の必要性	父よい ←=====> 教育 必要ない 母よい ←=====> 教育 必要ない 父普通 ←=====> 教育 わからない 母普通 ←=====> 教育 わからない 父よい ←=====> 教育 わからない 母普通 ←=====> 教育 わからない 父悪い ←=====> 教育 必要だ 母よい ←=====> 教育 必要ない	父よい ←=====> 教育 必要ない 母普通 ←=====> 教育 必要ない

(表22) <よい親になる自信×教育の必要性>

男 子	女 子
よい親 なれない ←=====> 教育 必要だ よい親 なれる ←=====> 教育 わからない	特になし

教育を行なうことを検討する必要があるのではないだろうか。

そこで適切な養育行動の学習の機会を与えるか否かなどということだけでなく、家事・育児を女性のみ押しつけないで男女が互いに協力して家庭を営んでいくことの大切さを認識させるような教育を、さまざまな機会を捉えて展開することについても考えるべきだろう。

現在、少年非行は昭和40年代後半からの戦後第三のピークといわれる状態が続いており、昭和57年版の『警察白書』によれば、非行少年が始めて全刑法犯の半数を超えたという。

また、同白書では、低年齢化した非行が経済状態や家族構成には特に問題は見られない普通の家庭の普通の子どもに広がっていることを指摘している。この根底には、親の養育態度の問題、ひいては家庭を営んでいくうえでの、両親の夫婦としての協力関係の問題がある。

これらの現状を踏まえながら、これらの問題について真剣に考え、早急に対策を立てねばならない時期に来ていると思うのである。

注

(注1)「多い」というのは、絶対数が多く、またそ

れが期待値よりも有意に多いということ。

特にことわりのないものは、これと同様。

(注2) 絶対数そのものは他と比較して最少であるというわけではないが、期待値との比較すると有意に少ないということ。以下、同様。

(注3) 「少ない」というのは、絶対数が少なく、またそれが期待値よりも有意に少ないということ。特にことわりのないものは、これと同様。

(注4) 昭和57年2月に総理府が全国の6歳以上18歳未満の子どもを持つ父親から層化2段無作為抽出法で選んだ3,000人を対象に実施した調査によると、妻が専業主婦であるのは46.6%と半数を割り、妻が定職を持っているもの30.8%、パートで働いているもの15.9%と、46.7%が家庭の外に仕事を持っていることがわかる。なお、自宅で内職をしているものは6.8%である。

(1982年9月22日受付)